



# 浜風だより

## 住吉祭礼 通り町

コロナ禍の終わりが見通せない中、今年も住吉祭りの季節が到来しました。城下の二大祭礼の一つとされる萩浜崎住吉神社の夏季祭礼ですが、祭礼が開始されたのは万治2年(1659)、今から360年以上前のことです。

一般的に住吉神は、航海守護の神とされます。しかし、ここ萩城下においては、穢れを祓い厄災を除いてくださる神として信仰を集めてきました。その背景には、盛夏を迎えるにあたり、衰えた生命力を更新し、その後を無病息災に過ごしたいという城下の人々の切実な願いがありました。江戸時代の城下町萩は、西国有数の大都市(町人地の人口は全国の城下町で10番目)で、疫病の蔓延が、火災と共に何よりも恐れられました。

この住吉祭りが城下をあげての祭礼となったのには、藩の関与もあつたと考えられます。現在も祭りの呼び物の一つである御船の巡行や、人目を引く(引いたであろう)「寄進聖」という笠鉾・山車の巡行は、江戸時代には藩の施設である「御船蔵」が担っていました。また、現在も引き継がれている「通り町」の制度も、早くに藩の認めるところとなっていました。「通り町」は、城下の数町内が順に祭



通り町神事

礼へ奉仕する制度で、「住吉町」とか「引受け町」とも呼ばれます。祭りが始まって程なくの寛文6年(1666)に始まり、延宝2年(1674)からは2町内ずつが奉仕を続け、現在に至っています。藩は祭りを盛んにすることに腐心していたようです。「通り町」においては、かつては「踊り車」、「夜見世」、「通りもの」などで祭礼を囃していたとされます。このうちの「夜見世」は、店先や座敷を開放し、祭りに合せて制作した作り物を飾り、道行く人たちに披露するものです。商店であれば、商品を用いた作り物を工夫し、人目を引く作り物の題材や見せ方が注目され話題になりました。

「通りもの」については、残念ながら具体的な内容が記録に残されていません。ただ、お隣の福岡県「博多どんたく」においては、現在も多くの「通りもん」が街を練り歩きます。また長崎県内では、盆の仮装行列を「トシモン」とか「トオシモノ」と呼ぶところがあります。類推するに、萩城下の「通りもの」は、人目を引く衣装をまとい、三味線・笛・太鼓などを奏でながら祭りを囃して練り歩く行列の類いだったのではないかと考えられます。「通り町」の呼び名は、これを担う町内ということ定着したもののようです。

「通りもの」を練り出すという目的のために町内の人たちが集うことは、日ごろ異なる生業に従う人が多い城下町においては、互いの人間関係を確認し、強めていく上で、とても大事な機会になっていたと考えられます。

清水満幸



神輿の巡幸



博多の「通りもん」



通り町参拝 (神社内に掲げられる町内の提灯)

港町浜崎にまたひとつ  
気になるお宿が誕生します！

浜崎の宿

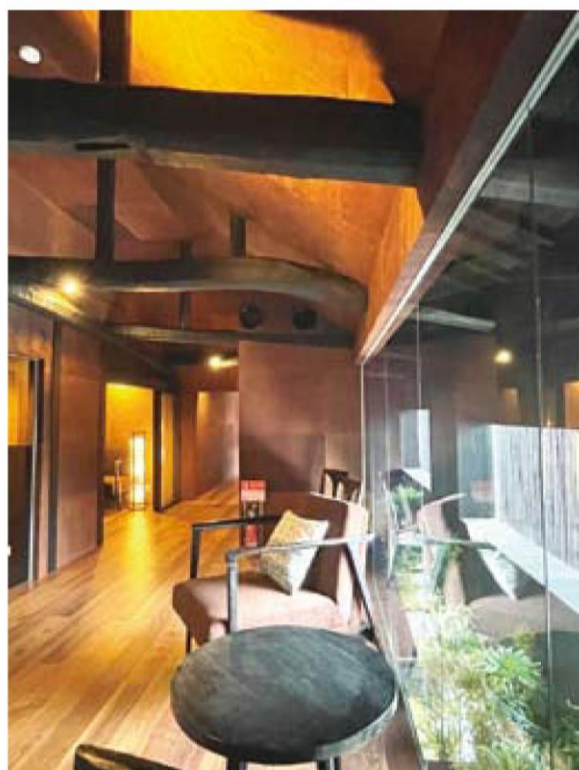


萩別邸



明治37年建築・木造二階建ての古民家を、市内で旅館・ホテルを営む松尾瑞恵社長が6年前に購入後、社員寮や倉庫として使用していましたが、このほどリノベーションし、一日二組限定の高級宿泊施設としてオープンすることになりました。インバウンド(外国人旅行者)もターゲットにしており、外装やインテリアの細部にまでこだわりぬいて、これぞ日本!の雰囲気随所に醸(かも)し出した宿になっています。

その建築に関わったプロフェッショナルな面々とは…



設計の堀川秀夫氏をはじめ、東大寺等、国宝・重要文化財・歴史的建造物の瓦を修復された陶芸家 鈴木浩之氏、彫刻家 坂口紀代美氏、和紙貼り職人 日野正恵氏、倉迫氏、木村裕也氏、染色家 浅山俊哉氏、など錚々(そうそう)たるメンバーです。椿やヨモギで染色した暖簾(のれん)をはじめ、古木・和紙などを使い、室内装飾も贅を尽くしています。海外からのお客様が増加する昨今、是非利用して欲しいとの願いを込めて、JAPAN感を全面に出しています。

すでに、『萩一輪』『萩小町』『リゾートホテル美萩』を経営され、ここ1~2年の間にも、堀内・椎原・西の浜・南古萩などで一棟貸し宿泊施設を次々と展開されている松尾社長。「通り道の古い建物と町並みで、萩の活性化につながれば…」と、経営手腕を発揮されています。

元々は、岡山県の湯原温泉で旅館業を営んでおられ、先代の松尾二郎社長の経営する『萩城観光ホテル』の時代に萩に来られて、間もなく20年を迎えます。今日までの松尾社長の働きぶりといえば、融資・人事・修繕から草むしりに至るまで、あれもこれも全部自分でこなしてこられました。“トップが自ら動かないと、皆はついてこない。”人の上に立つ者として、自らすべての行動を起こすことにより、「何かあったとしたら、全責任は私。社員・家族をしっかり守りながら迷惑はかけられない。」と、強い信念をもって365日休みなしに全力投球の日々を過ごしていらっしゃいます。実に男前な女性社長です。エネルギーでパワフルに働ける幸せこそが、元気の源とおっしゃっていました。



「浜崎の宿 萩別邸」の半年間の工事期間で、「浜崎の方々には本当に優しく親切!そして何とんでも、浜崎が大好き!という地元愛の素晴らしさをつくづく感じました。」とのこと。

また、「萩と言えば、城下町。その城下町と並んで浜崎!この3つを並べて萩をもっと売り出して欲しいくらいです!移住するなら絶対萩!と言いたい。」とおっしゃる松尾社長の言葉は説得力抜群でした。

更には、「私自身いずれは浜崎に住みたい。」との事で、何とも有難い、嬉しい言葉を頂きました。実は浜崎びいきな松尾社長。浜崎住人こそって大歓迎いたしますよ~!その日を楽しみに心よりお待ち申し上げます。

★ 住吉神社  
からのお知らせ!



お祭りは市民(町民)の楽しみであり、皆様の参加、ご協力をお願いします。大いに楽しみましょう。

宮司 中津江瑞穂

濱崎出身で小野田セメント創始者の笠井順八翁が、濱崎の住吉様の御霊を別け、明治32年(1899)小野田市の会社裏山に住吉神社を建立しました。現在、「復活住吉まつり」として毎年5月に祭りを賑やかに展開しています。

わが社「住吉祭」も暑い夏を越すため江戸時代から伝えられた神事を中心に今年も斎行します。8月1日は花火大会、境内では神楽舞、ビヤガーデン等。2日は引き受け町(通り町)住吉神輿御神幸。3日は踊り車、御船市内巡行、深夜には境内で「おあがり」踊り車・御船・女神輿・住吉神輿と夏の祭事が最高潮を迎えます。4日夕刻は市内唯一「茅の輪くぐり」により疫病退散、無病息災を祈り夏を越します。

テレビや全国の寄席で活躍されている講師 神田京子さんの出演を予定しています。御船倉で講演を上演するのは初めてです。詳細は後日チラシ等でお知らせします。おたのしみに!



10月の御船倉イベント

浜九会ビヤガーデン

8月1日2日



お祭りの夜に浜九会が住吉神社境内でビヤガーデンを開店します。キンキンに冷えた生ビールと焼き鳥をご用意してお待ちしています。ぜひお越しください。

お得な前売りセット券(900円)を販売しています。ご近所の浜九会員にお問い合わせください。



◆編集後記◆  
今年のおたから博物館は、始めて24回になります。過去最高の人出でした。当日の賑わいや、お客様の楽しそうな姿を見ると、時間をかけて準備してよかったと嬉しくなります。来年のおたからも、新しい企画を考えます。ご期待ください。

編集委員  
宮田・川久保・岩崎・石村・平野・末益

